

8308 梨田はだしぬけに, ···

梨田はだしぬけに,

「うまいフランス料理店があるんですよ。値段も安い。ゆきましょう」と朝子を誘った。彼女は『これから?』と驚いてから『でも、こんな服でいいかしら』と答えたが、これはすでにゆく気があることの表明だった。男が一押し二押しすると、女は断ることはできない。

丸谷才一『裏声で歌へ君が代』

[許容訳例]

Suddenly Nashida said to Asako, "I know a restaurant which serves good French food. It's cheap, too. Let's go and have dinner there." Surprised at his suggestion, she replied, "You mean, right away?" then added, "But I am not properly dressed. Will I be admitted?" The words themselves proved that she was in a mood to go with him. If a man presses a woman, she is unlikely to refuse.

[翻訳例]

"I know a good French restaurant," said Nashida without warning. "Cheap, too. Let's go." "Now?" said Asako, surprised at the sudden invitation. Then she added, "Do you think I'll do as I am, though?" The words themselves were a declaration of willingness. When a man is forceful, the woman can rarely refuse.

■梨田はだしぬけに, (8308)

★ 「だしぬけに」は suddenly; without warning (予告なく) (=without introduction [preparation]); out of the blue (突然 (天から降ってきたように)) など、いろいろあります。

■ 「うまいフランス料理店があるんですよ. (8308)

★ 「うまい」は good がいいでしょう。tasty には確かに「うまい, おいしい」の意味がありますが、二つの理由で使わない方がいいです。これは、なんとなく‘(特徴のある, ちょっと

変わった) 刺激的な味' というニュアンスで使うのが普通であること, もう一つは, 広告などに使うような何となく陳腐な感じがするからで, やはり避けた方がいいです. それから delicious は大げさで何となく浮いた感じになります.

● 「隠れ連体修飾節+体言」(うまいフランス料理店)

「うまいフランス料理店」は, そのまま「うまい・フランス・料理店」として a good French restaurant でいいのですが, これは「連体修飾節 (おいしいフランス料理を出す) + 不定代名詞的体言 (店 (ところ))」を端折ったもので, 英語では「名詞(a restaurant[place]) + 関係詞節(that[which] serves (really) good French food[dishes])」という言い方も同じくらいよく使います.

★ 「・・・があるんですよ」は I know…がいいです.

■ 値段も安い. (8308)

★ 「値段 (が安い)」は be cheap がいいです. be low in price は物そのものが安いという時に使いますが, 料理の場合にはあまり使わないと思います. ところで, be cheap の使い方ですが, It's cheap there. とすると, この場合の it は料理店を指すのではなく It's hot in this room などと同じで, 漠然と things とか food を指すことになります. それから there をとって It's cheap. とすると, it の感じが変わってきます. この場合は The restaurant is cheap. という感じです. ここは (It's) cheap, too. でいいと思います. なお, The prices are cheap, too. も完全な英語ですが, この場合の prices はいかにもメニューに書いてある値段という感じです.

◆ 「・・・も」(besides の使い方)

「値段も・・・」は, 「その上, 値段も・・・」の感じになりますから besides も使えそうですが, ここでは使えないと思います. ちょっと難しい問題かもしれません, 普通 besides という言葉は主に否定文で軽く理由を追加する場合に用いるのです. たとえば, I don't want to go out today. It's raining. Besides, I don't have any money. というように. ここでは「(うまい上に) 値段も安い」と肯定的に理由を提示しているので, …, too を使えばいいでしょう. (ついでですが, moreover は「重い理由」を追加するような場合に使います.)

■ ゆきましょう. (8308)

★ 「ゆきましょう」は, ここでは, 男の誘いが強引きを感じさせてるので, 「さあ, ゆこう」つまり, 「出かけましょう」という意味で Let's go. でいいと思います.もちろん, Let's go there. とか Let's go and have dinner there. でも構いません. なお, Let's go, shall we? も英語としては問題ないのですが, 後に出てくる「一押しする・・・」と考え合わせると, ちょっと柔らかすぎる感じです.

■ と朝子を誘った. (8308)

★ 「・・・と朝子を誘った」は, 発言の最初に置いて, Nashida said to Asako, “…”と初めても間違いではありませんが, この部分と次の会話の部分とのつなぎ方は問題になります. 本当ならやはり途中に挿入する形の方がいいと思います. なお, invite を伝達動詞として使う

のは無理と思います。「誘った」は Let's go の中に含まれていると考えるべきです。

■彼女は『これから？』と驚いてから、『でも、こんな服でいいかしら』と答えたが、(8308)

★「これから？」は“You mean, right away?”でもいいですが、簡単に “Now?”とすれば you mean を入れる必要はなくなります。日本語では「これから・今から」という場合でも、英語では now だけで表すことができるわけです。

★「・・・と驚いてから」は「・・・と驚いて『これから？』と言つてから」の「から」でしょう。「・・・と驚いて」は surprised at…ですが、at の後に驚いた内容が必要です。ここでは the sudden invitation とか(the suddenness of) the suggestion とか、the[his] sudden suggestion は可能ですが、the[his] sudden offer はちょっと使えないと思います。offer というのは Shall I do something for you?とか、If you'd like to have French food today. I'll take you.というような場合です。

● [から] (=それから) (順次)

「[から] は「(それから)・・・と答えた」と続く「から」ですから then です。ここでは Then の代わりに But も使えると思います。ただし、次にも「でも」が出てくるので then がいいと思います。

★「でも」は but ですが、すぐ前で But を使った場合には、続く文が疑問文なので、文末に though を加えて、…, though?とすることが出来ます。なお、この though は副詞です。

★「(でも) こんな服でいいかしら」というような場合によく使われる言い方としては I wonder if I will [I'll] do [it will be all right] as I am(, though)?という表現があります。この場合の as I am は「こんな服（のまま）で」という意味になります。あるいは Do you think I will do as I am [in these clothes](, though)?のように言います。「こんな服で」を直訳するのなら in these clothes です。なお、こういう日常の表現が思いつかない場合、But I'm not properly dressed. Will I be admitted?と作文すればいいでしょう。ところで、このような会話で I am は絶対使いません。I'm です。

★「と答えた」は、この場合、「これから？」という疑問文に応じるのですから said あるいは asked です。ほかに added も使えるでしょう。なお、間違いではありませんが、疑問文に対して replied はちょっと問題です。

●日本語の情報配列になるように工夫する

日本語は「彼女は『これから？』と驚いてから、『でも、こんな服でいいかしら』と答えた」となっていますが、細かく言うと「彼女は『これから？』と驚いて言って、それから、『でも、こんな服でいいかしら』と尋ねた〔加えた〕」です。「彼女は『これから？』と驚いて言って」のところは「・・・[て]・・・した」の形ですから、英語では「主動詞(“…” said Akiko,) + 句(surprised at…)で処理することができます。つまり，“Now?” said Asako, surprised at the sudden invitation.です。それから後半の「(・・・言って,) それから、『でも、こんな服でいいかしら』と尋ねた〔加えた〕」の「(・・・言って,) それから・・・」は Then she added[asked, “…?”と続けると、ほぼ日本語の情報順に翻訳することができます。

■ (と答えたが) これはすでにゆく気があることの表明だった. (8308)

● [が] (話題導入)

この [が] は「逆接」ではなく、「話題導入の [が]」です。関係詞を使ったり、セミコロンを使ったり、日本語の〔関係性指標〕を無視したりします。ここでは、たとえば、「我々は昨日田舎の道をジョギングしたんだ [が]、道はたいへんぬかるんでいた。」→We jogged on a country road yesterday. The road was very muddy.のように、日本語の〔関係性指標〕を無視しましょう。

★「これは」は「この言葉は」でしょう。一語ではありませんから、英語では「定冠詞+複数」(The words)です。なお、these words でも間違いではありませんが、了解済み情報ということで the words でいいと思います。

★「すでに」は、ここでは The words themselves とします。これは「(もうそれ以上聞かなくても) その言葉だけで十分・・・」という感じの言い方ですから、結局「すでに」と同じ意味になります。already を使うと完了形を使いたくなります。たとえば、ちょっと大袈裟な言い方になりますが By these words she had already proved that…となります。

★「ゆく気がある」は be willing[ready] to go with him ですが、be in the[a] mood to go with him でも表現できます。よく似た表現に be in the humor to-Inf. (e.g. I was not in the humor to talk. 話す気になれなかった) も辞書にはでていますが、humor をこの意味ではもうあまり使わないと思います。古い言い方です。なお、go の代わりに come を使うと、represented thought をふんだんに使って筆者の気持を書いているような場合ならいいですが、ここの文章はかなり客観的に書いているかんじですからやはり go の方がいいでしょう。

★「(これは) ~の表明だった」は「証明(prove)」ではなく「表明(declare)ですから、The words themselves were a declaration of…です。

● 「隠れ連体修飾節 [の] + 体言」(ゆく気があることの表明)

「ゆく気があることの表明」は「連体修飾節 {『連体修飾節 (ゆく) + 体言 (気)』がある + 同格 (ということ) + の (=を示す) } + 体言 {表明}」という複雑な組み合わせ (a declaration that she is willing[ready] to go with him) を簡潔に表現したものです。英語でも簡潔に(a declaration that she is willing[ready] to go with him)→a declaration of willingness [readiness])することができます。このように「ゆく気があること」というような表現を一つの抽象的な単語で纏めるのも一つのコツです。実際、英語はこういう抽象名詞をよく使う言語で、逆に、こういう抽象的表現を「ゆく気がある」と訳すのが英語から日本語への翻訳の技となります。

■男が一押し二押しすると女は断ることはできない. (8308)

◆冠詞の使い方 (一般論の場合でも定冠詞)

★「男が一押し二押しすると女は断ることができない」は一般論を言っているので、「男」は a man で、「女」は a woman でいいし、一組の男女を想定し多場合、一般論でも「男の方は・・・、女の方は・・・」という感じを出すために the man; the woman でもいいです。

また a man…the woman でも一組の男女の感じはでます。ですから、逆に、一般論によく使う無冠詞複数(men; women)をここで使うのには抵抗感があります。

★「一押し二押しする」は be forceful とか push とか、あるいは、push と同じ意味で、もう少し乱暴というか、強い言葉で shove がありますが、これを使ってもいいと思います。また press the woman でもいいです。

★「断ることはできない」は cannot [is unable to] refuse でも意味は十分に通じると思いますが、この場合、cannot refuse だけでは何となく物足りない感じがするし、たとえば、「断れないことになっている」とかいろいろなニュアンスにもなりますから can rarely refuse とした方がいいかもしれません。また be unlikely to refuse でもいいでしょう。

● [と] (同時)

「男が一押し二押しする [と] 女は断ることはできない」の [と] は「同時」で when でいいですが、「そういう場合」(条件同時)として if を使っても構いません。